



NPO法人湯河原げんき隊 (湯河原町)



## 年10回のイベント開催で湯河原の「げんき」を創出

### ■地域資源を活用したコミュニケーション

#### ティづくり

湯河原げんき隊は、地元湯河原の汲みたて温泉や地元産のタケノコやイモなどの地域資源を活かして人のつながりをつくるNPO法人です。年末年始の餅つき大会、いちご狩り、タケノコを食べる会等、年10回ものイベントを開催しているほか、地域の様々なイベントに助っ人として呼び出されています。

### ■10年やれば平凡も非凡になる

仕事を退職して湯河原に民住り、温泉関係の仕事を継いだ、湯河原げんき隊の神谷一博理事長。2010年に湯河原げんき隊を立ち上げたきっかけは、町の観光戦略会議に2年間参加し観光客の減少と住民の高齢化が進む現状に直面し、町に活気を取り戻したいとの想いから。「大切なのは、続けることです。何事も10年やれば平凡も非凡になる」といいます。当初のイベント

### ト参加者は主に知り合いで30人程でしたが、10年やってき

て今では初めての方も多く、100人以上になることもありま

### す」と神谷理事長は話します。

### ■日々の活動の積み重ねが自然と仲間を生む

湯河原げんき隊の特徴は、自分たち主催のイベントだけではなく、地域全体を盛り上げたいと、地域の行事での足場の設置、国際交流のホストファミリー役の引き受けなど、様々な活動に

### 一言アドバイス

何事も10年やれば平凡も非凡になると思います。取組みは継続することが大切です。



NPO法人湯河原げんき隊  
理事長 神谷一博さん

### 成功のコツ

- ・10年間取組みを継続する強い意志
- ・継続するために必要なコスト意識の仕組みづくり
- ・他団体主催のイベントのお手伝いなど信頼を生む活動の積み重ね

## を創出

積極的に参加していることで、ただし、このような取組みを継続するためには、人員も含めたコスト意識が重要で、このバランス感覚に裏付けされた日々の活動の積み重ねから信頼が生まれ、自然と仲間が増えてきたそうです。最近始めた告知用のグループLINE@の参加者は、げんき隊が直接参加をお願いしなくても、人が人を呼び、瞬く間に50人超えに。300人くらいまではすぐに増えるので

はないかとのこと。また、「喜んでもらうためにはどうすればいいのか」と、常に新しい企画に挑戦していることも特徴の一つです。例えば、2019年末に始めた「餅つき大会」はご自身が過去に参加したイベントで大人気だった企画を導入したもので、参加者から大好評で、またやって欲しいという声が多く寄せられ、翌月の1月には早速第2弾を開催しました。

■志を同じくする仲間を助きたい「これからは、同じような活動をしている人、苦勞している人、例えば折角良いアイデアを持っているのに、集客や資金の関係で困っている人が多くいます。今、金銭面でも補助してあげられるような仕組みの構築を希望しています。向こう数年で形にしたいと思っています」と話す神谷理事長。

NPO法人湯河原げんき隊は、これからも地域に人のつながりをつくり続けていきます。

